

令和元年度 第2回学校運営協議会 議事録

岐阜市立岐阜商業高等学校

1 名 称 学校運営協議会

2 構 成 委 員 長 竹本 康史 岐阜聖徳学園大学教授
委 員 山内 義孝 (株)サムソンフィクセル代表取締役社長
" 委 員 2 精華中学校関係者
" 石原 虎倫 P T A会長
" (欠席)桐生 伸治 鏡島自治会連合会会長
" (欠席)堀部加奈子 前P T A副会長

<学校側>

副委員長 大坪一才恵 校長
委 員 和田 浩年 事務長
" 下平 義広 教頭
" 浅井 智世 教務主任
" 野村 昌史 生徒指導主事
" 杉山 明宏 進路指導主事
" 秋田 和哉 特別活動部長
" 澤田 幸男 商業科主任

3 目 的 保護者や地域住民と目標やビジョンを共有して連携を深め、家庭や地域と一体となって生徒を育む「家庭・地域とともにある学校づくり」を推進する。

4 日時・場所 [日時] 令和2年1月28日(火) 13:30~15:10
[場所] 校長室

5 協議概要

(1) 日程説明・授業参観

情報処理科実習発表会を参観し、情報処理科3年生が制作した作品発表に係るプレゼンテーションを視聴した。

(2) 校長挨拶

委員の皆様には、昨年実施した50周年記念事業に係り、多方面から御協力賜りありがとうございました。50周年を節目として、これからも地域に貢献できる学校、将来を展望した魅力ある学校にできるように、気持ちを新たにして再出発したいと思っています。この後、各担当から本年度の取組、今後の課題、改善案等を報告させていただきます。先ほど見ていただいた授業の感想も含め忌憚のない御意見をいただき、今後の学校運営、学校づくりに生かしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(3) 学校運営に係る協議(学校関係者評価及び学校運営の在り方に係る協議)

関係分掌長が自己評価報告書、学校案内等の付属資料を使用し、本年度の運営方針、具体的な取組、成果及び課題、来年度に向けた改善案を①教務部②生徒指導部③進路指導部④特別活動部⑤商業教育部⑥事務部の順に報告し、評価や御意見をいただくとともに、学校運営全般に係る御意見、御感想を次のとおりいただいた。

【各委員の評価・意見・感想等】

- [意見1] ICT機器の活用について説明があったが、ICT機器を使うことが目的になってしまっただけではいけない。何を教え何を理解させるのかという本来の目的がぼやけてしまい、ICT機器を使うこと自体に注力する傾向がある。効率よく使用することで時間の余裕も生まれ、生徒とのコミュニケーションを取る時間を作ることもできる等の利点もあるが、本質を見失わないようにICTを有効に活用することが大切である。
- [意見2] 教務部のアンケート等の分析では、「教職員、学習指導の全ての項目で『ややあてはまる』以上の回答80%以上を目指したが達成できなかった」と言う説明があったが、なぜクリアできなかったのかという原因をしっかりと分析し次の改善に繋げて欲しい。
- [意見3] 中学校も、以前のように身だしなみのひどい生徒はいなくなった。保護者と先生が連携して指導するという事はないが、中学校の先生がしっかり指導してくれている。個人的には、あまり厳しくしすぎると反動もあるので、状況に応じて柔軟な指導も必要だと考えている。
- [意見4] 高校では、身だしなみ指導等のマナー指導をしっかり行っていただいている。ただ、1、2年の時や部活動を引退するまではしっかりしていても、3年になったり部活動を引退したりすると緩んでくる生徒もいる。緩めないように卒業するまでお願いしたい。
- [意見5] 高校では、SNSに関してはよく問題になるが、薬物については問題になることは少ない。卒業して大学や社会人になると薬物の問題も身近になってくる。学校で薬物乱用防止講話を行い指導していただいているが、これからもしっかり指導をお願いしたい。
- [意見6] 企業においても身だしなみやマナーの研修を行うが、あいさつからやらないといけない現状である。研修しても元に戻ってしまうこともあるので、学校と同じように継続して指導することが大切である。
- [意見7] 参観した情報処理科の実習発表会でVBAによる作品の紹介があったが、VBAによるシステムは、後任の人がメンテナンスしにくいという面がある。既に指導されていると思うが、業務の効率化で有効なRPAなどのような最新技術についても指導されるといいと思う。また、論理的な思考力の育成という観点も念頭に置いて指導して欲しい。
- [意見8] 本年度も部活動の実績がすばらしく、先生も生徒もよく頑張ってみえる。中学校では、いじめ問題の要因として、部活動指導による教員の負担増が取り上げられるなど、部活動の指導が教員の大きな負担となっているのが現状であるが、高校では部活動の負担はどうか。
- [回答] 負担であるという話は出ていない。確かに指導者の人数に限りがあり、人手不足の面はある。また、働き方改革の一環として部活動の在り方も検討されている。ただ、部活動をやりたくて入学してくる生徒も多いため、そうした生徒の要望にも応える必要があるし、部活動が人間形成の点や今後の豊かな社会生活を支えるという点で有益であるということも考慮し、各先生方が部活動指導にあたっている。今後、部活動ガイドラインに従い必要な休養日を設けたり、効率的な部活動指導の在り方を研究、研修したりして練習時間を短縮するなどしたい。そのことで教員もゆとりをもって生徒と接することができ、生徒把握や生徒理解の充実にもつながる。

[意見 9] 進路状況の報告があったが、例年通りか。

[回 答] 進学では、専修大学にチャレンジし見事合格するなど、よく頑張った生徒がいる。概ね例年と変わりはない。

[意見 10] 最近では、大学でも離職率が高い傾向がある。安易に内定したから就職するという学生がいるのが原因かもしれない。しっかり調べさせてはいるが難しい面がある。高校では離職率はどうか。

[回 答] 本校では、離職する場合は報告するよう卒業生に依頼しているが、報告しない卒業生もいるので正確ではないかもしれないが、離職率は低い。

[意見 11] 部活動は人間教育の一環として大切ではあるが本業ではない。本業は勉強である。私は、学習と部活動の両立とは、本業である勉強をうまくやるための趣味として部活動を行うことであると考えている。だからといって部活動を軽んじるものではない。本業である勉強があるから部活動ができるということを指導して欲しい。

[意見 12] 家庭で子どもには、資格が取れる環境（学校）にいるので、取れる資格には少しでも多くチャレンジするよう言っている。しかし、何で取らなければいけないのかよく分かっていない様子もある。きっと話していただいていることだと思うが、資格の必要性や大切さなど、今後の生活と意味づけして理解させて欲しい。

(4) おわりに（校長挨拶）

本日は、貴重なご意見をいただくなど充実した協議が行えました。いただいたご意見等は、今後の学校運営に反映させ、「家庭・地域とともにある学校づくり」「将来を展望した魅力ある学校づくり」に努めたいと思います。引き続き皆様のご協力をお願いします。